

令和 5 年度介護職員向け介護技術研修会について

令和5年度介護職員向け介護技術研修会(報告書)

1. 背景・目的

今般、介護人材の不足が深刻となり、保険者として早急に対応が必要な状況にあります。

また、職員の指導等が事業所ごとの体制に大きく依存しており、正しい介護技術を学び、確認する機会が無い場合が多く、利用者および職員の身体的負担や事故のリスクが大きい方法を取り続けざるを得ない状況もあると考えます。

そして、「人材不足のため、遠方での研修等に参加できない」という声もありました。

この状況に対して、市内介護事業所における介護スタッフが、正しい介護技術を学ぶ機会を確保するため、上記研修会を実施しました。

2. 期待される効果

- (1) 参加者に、専門職としての自負と自信をつけてもらう。
- (2) 正しい介護技術を身につけることにより、介護事故のリスクや介護職員の身体的負担を減少させる。
- (3) 本研修を他事業所職員との交流の機会として活用し、事業所の垣根を超えた横の繋がりを形成する。
- (4) 介護職のサービスの質とやりがいを向上させることで、介護離職を防ぎ市内における介護人材の確保を図る。

3. 参加対象者

- ・ 通所介護サービス事業所
- ・ 認知症対応型共同生活介護事業所
- ・ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業所

※来年度は訪問系・定期巡回・多機能系の事業所を予定しています。

4. 開催日時等

	日時	会場	参加人数
第1回	令和5年11月27日(月) 13:30~16:15	置賜総合文化センター 203 研修室	6名
第2回	令和5年11月28日(火) 13:30~16:15		5名
第3回	令和5年11月29日(水) 13:30~16:15		7名

5. 講師

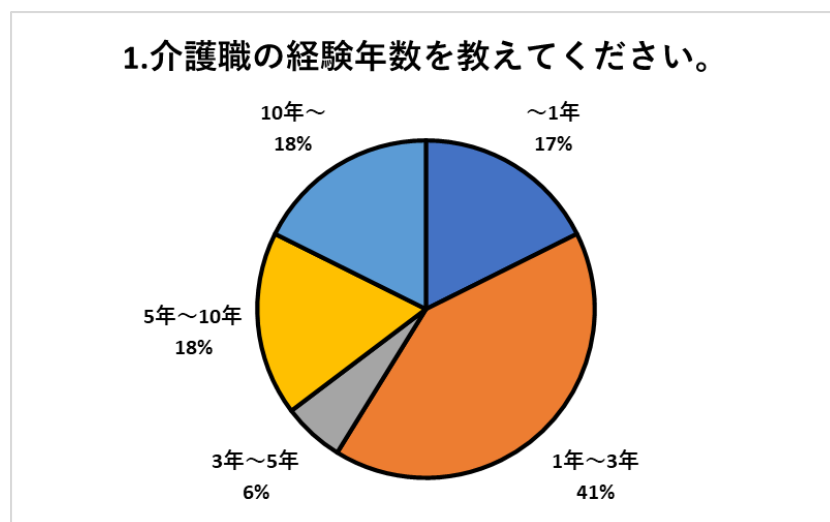
介護福祉士実習指導者（所属：社会福祉法人米沢弘和会 様）

6. 研修内容

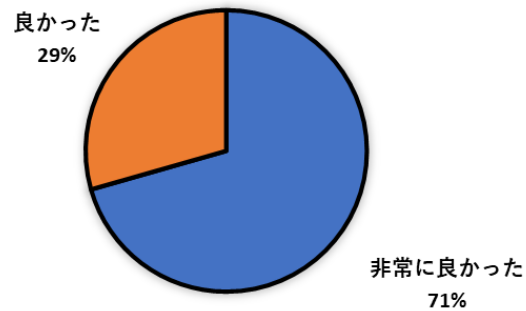
以下の演習項目について、適切な介護の方法を実演及び実習形式で学ぶ。

演習1：自然な動き・体の構造等について
演習2：車イスの方の介助について
演習3：杖歩行の方の介助について

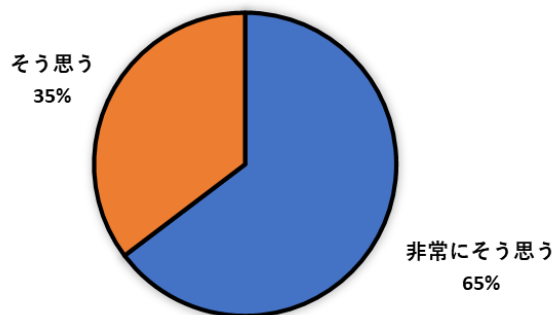
7. アンケート集計結果(一部抜粋)



3.今回の研修を受講してみてもいいか？



4.研修内容は今後の実務に役立ちそうですか。



6.今後、どのような研修を受けてみたいか教えてください。

・レクリエーションなど	・寝たきり状態の方のシーツ交換
・入浴介助など	・コミュニケーションなどを学びたい
・耳が不自由で、片麻痺の方の介助方法	・ベッド上での衣類交換の方法
・技術的な研修	・おむつ交換、麻痺のある方のおむつ交換
・食事介助	・認知症の方への対応方法を今以上に知りたい
・体調急変時などの対応方法	・日常生活での細かい対応方法

7. 自由記載欄

- ・軽介助の利用者が多く、全介助者の移乗が上手くできず、焦っていました。今日学んだこと一つ一つが役に立ちました。残存機能を活かした介助に努めていきたいと思います。
- ・今回の研修を再度確認し、現場で活かしたいと思います。ありがとうございました。

8. 所感

市内介護事業所から幅広い年齢・経験の方に御参加いただきました。

また、講師の分かり易く丁寧な研修のおかげで、参加者からも好評の声が聞かれ、研修後のアンケートからは、他にも受けてみたい研修のテーマが多く出るなど、「介護スタッフとして知識・技術を向上させたい」という参加者の意欲も見られました。

ただ、課題も多く見られ、その一つが、参加人数が定員の半数以下であったことです。原因としては、事業所の人員不足によるものが一番と考えられますが、事業所が忙しい月末であったこと、各事業所から一名のみという制限があったこと等も影響したと考えます。

他にも、本研修では、「他事業所職員との交流の機会として活用し、横の繋がりを形成する」という目的もあったため、研修の序盤にレクリエーションを取り入れた方が良いと感じました。

これらを踏まえ、次回以降について、開催日・制限の緩和・内容の構成等を検討していきたいと思います。また、事前に希望の時期や学びたいテーマなどのアンケートを取り、ニーズを把握するということも必要だと感じました。

本研修を通じて、経験があっても、正しい知識・技術が意外と身についていないこと、介護スタッフとして知識・技術を向上させたいという意欲があること等、多くの発見がありました。

来年度は、より多くのニーズに沿った研修会を目指し、多くの方に参加していただけるように計画を練っていきたいと思います。